

子どもは風の子 元気の子!!



みんないっばい食べてくれるかな?

なかよしクラブでは十一月十七日(日)、四年ぶりの「もちつき大会」を行いました。

四年ぶりということもあり、餅つきの仕方や詳しいことを知っている保護者がいないという、不安もありながら準備をしました。

餅の種類は、「きなこ・納豆・おしろこ・砂糖醤油(海苔)」に決定。九十三名参加で、当日届いたもち米をお父さん達がつき、お母さん達が返し、つきたてのお餅を試行錯誤しながら用意し、それぞれの具にからめて食べることに。餅つきを子ども達と一緒にすれば

**四年ぶりの
もちつき大会**
なかよしクラブ(亀ヶ崎)

みんなで作ろう手作りおやつ

今回は **フルーツ春巻き**



- ◆材料
- 春巻きの皮10枚 揚げ油 適宜
 - バナナ・キウイ・オレンジ・イチゴ・ブルーベリー等
 - 好きなフルーツ 適宜

- ◆作り方
- 好きなフルーツは5mm~10mmのサイコロにカットしておく。
 - 春巻きの皮は市販のもので、それを長方形になるように半分にカット。サイコロにカットしたフルーツをのせて、太めのエンピツみたいにくるくる巻く。
 - 180℃に温めた揚げ油でキツネ色になるまで揚げて、グラスに立てて出せば、おしゃれなデザートができあがり。

- ◆ポイント
- すっぱいフルーツの時は、カットした時に砂糖をまぶして水切りしてから、春巻きの皮で包むとGOOD!
 - 揚げ油を使いますので、やけどには注意してください。
 - 揚げたて・サクサクを子ども達と一緒に召し上がってください。

良かったのですが、杵が重く食べるだけの会になってしまい残念です。それでもつきたてのお餅はやっぱり、おいしかったのか、各種類行列で、十何個も食べた子もいる程でした(笑)。

来年からは、餅をつくことから子ども達と一緒にやり、伝承遊びを親子(祖父母)一緒にするようなどもしてみたいと思いました。

「つきたては、おいしい!」と思わず食べてしまい、「大満足、大満腹」の一日を皆で楽しく過ごしました。

(保護者会事務局長 猿田 恭子)



力を合わせて、よいしょ!!

親子レクリエーション
親子でピザ作り
 おひさまクラブ (松原)

くもちもち・カリカリ・とろとろ
手作りピザおいしかったよ！

今年度のおひさまクラブの親子レクは、十二月一日に羽黒の松岡より講師の先生を呼んで、東禅寺コミセンをお借りして、米粉ピザ作りを行いました。

始めに、先生に生地の作り方を聞いてから班ごとに分かれて作りました。先生の話を聞いている子ども達は『おいしいピザを作るため！』と、とても真剣。米粉とハープにオリブオイルを入れ、力を入れて「こねこね」。これがなかなか上手!! 生地からは良い香



“こねこね” おいしいピザ作るよ!!



おいしくできますように!!

りが……。発酵させている間も「まだかなあ〜」「あっ! ふくらんできた!!」と待ち遠しい様子。また、保護者の方達も、発酵を待つ間、普段なかなか顔を合わせる時間のない他の保護者の方とお話でき、良い時間になりました。

生地が発酵したらピザソースを塗り、玉葱・ベーコン・コーンにチーズをたっぷりトッピング! そうそう、ピーマンも忘れずに……フライパンで六分ほど焼くと、チーズがとろとろとけてきて、おいしそうな香りがしてきたら、いよいよ出来上がり!! 「おいしい!!」「もちもちだね!」の声。二十四cmのフライパンいっぱい作ったポリウム満点ピザ。一人分はその半分と言うことで、お昼



お父さん、お母さんも真剣!

親子レクリエーション
秋の日の陶芸教室
 わくわくクラブ (若浜)

ご飯に丁度良く、皆でおいしくいただきました。(おいしくて、家族へお土産に持って帰るという子も!)
 親子での共同作業の時間を持って、心もお腹も大満足な親子レクになりました。

(親子レク係長 長澤奈々)

わくわくクラブでは、親子の交流を深め、思い出作りの目的で年一回、親子レクリエーションを実施しています。一昨年は、学童開所一年目ということで「学童へお泊まり」をし、次はどこへ行くかと父兄で話し合い、親子で一緒



かっこいいのできるかな?

にできることがしたいとの要望があり、「松ヶ岡へ陶芸教室」へ出かけました。
 実施時期は、春から初夏は学校行事、スポ少の大会等で日程が組めなかったもので、運動会終了後の九月最終の日曜日と早目に決め、それに合わせ係も動いていきました。

当日は秋晴れで、昭和の雰囲気のある松ヶ岡の風景も散策し、親子で手づくりマグカップや皿を作り、小高い丘で親子一緒ににおにぎりを食べました。子ども達は走ったり、丘から転がったりと、大さわぎでした。
 今も、作品を見ると思い出し、良い親子の記念になりました。
 (親子レクリエーター 佐藤 雪子)

思い出いっぱい



あっ！あぶない！
(交通安全教室・松陵)



マカンコウサツポウ!!
(琢成)

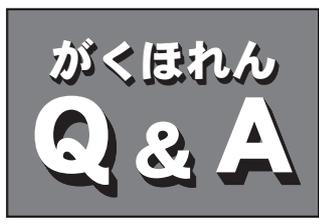


ハイ、ハイ！ここが危ない!!
(危険予知トレーニング・平田)

指定管理者制度って？

指定管理者制度は、市の条例の定めに基づいて、市が指定する法人、その他の団体等に、公の施設の管理・運営を行わせることのできる制度です。指定管理者の範囲は、特段の制約は設けずに、一般的には公募により行い、議会の議決を以って指定されます。

学童保育所は、保育室等及び学童保育活動等、学童に関する全てのことになります。



の指定管理者の維持・管理事業の運営や保育の実施に業務を担うこ

酒田市に指定管理者制度が導入され、平成19年4月に酒田市学童保育連合会が初めて学童保育所の指定管理者となりました。平成23年2月にはNPO法人「がくほれん with 酒田」の発足に伴い指定管理者を引き継ぎ、平成24年4月から5年間の再指定を受けたものです。

がくほれんは、営利を目的としない組織の特性を生かしながら、地域の皆様や保護者の皆様、更には関係者が一丸となって社会的責任を果たして参りたいと思っています。
(事務局)

「メディア依存」について

『メディア漬け』で壊れる子供たち(少年写真新聞社)「電子メディアは子どもの脳を破壊するか」(講談社文庫)等の本があります。

現在の医学では、電子メディアが子どもの脳に与える影響はよく分かっておらず、因果関係を立証することは極めて難しいそうです。しかし、情報革命(ビデオ・パソコン・携帯電話・TVゲーム等)

の普及が、子ども達や私達の生活を大きく変化させ、「つながっていた」心が、バラバラにキレてしまっています。(TVやビデオが子守?)

「食育も、学力も、体力も人間関係づくりも突き詰めていくと、全てメディア漬け、メディア依存に突き当たる」という方もいます。「インターネットは、必ずしも正確な情報を流しているわけではない



い」ということを、私達大人は知っています。大人も子どもも、メディアに振り回されず、メディア機器に冷静に向き合う力をつけ、メディアよりも面白い親子関係を作り、子ども達の心と身体の発達を考えていきましょう。

次年度の保護者研修会のテーマにしたいと思います。(義朗)

あ と が き

今年は、雪が少なく比較的に過ぎしやすい冬でしたが、各学童保育では趣向を凝らした様々な行事が行われたようです。

今回紹介しました三つの活動からは、子ども達の生き生きとした様子が伝わってきます。それらを通して、保護者と指導員で「共育」しながら、子ども達と共に成長していけたら幸いです。
(杉山)

発行/がくほれんwith酒田 発行責任者/佐藤義朗

編集責任者/杉山道弘 印刷/榎荘内印刷

ただいま!

— あたたかな第2の家庭を目指して —



「選手、せんせいっす!! 私たちは……」

「えっ!!」



第二回ドッジボール交流大会 「勝っちゃった?……」

「こっち・こっち?」「ボールに背中見せるなよ!」「ボールをまわせ?」。下級生にドッジボールのルールを一生懸命教えている上級生。異年齢集団の学童ならではの大会前の全学童の光景でした。各学童とも、練習に練習を重ねて十一月二十四日の大会当日を迎え、二〇九人の児童とその保護者で国体記念体育館小アリーナは、熱気でいっぱい。昨年、周年祭で参加できなかった琢成学童や今年からがくほれんの仲間に加わった平田学童はじめ、全十二学童十六チームの参加。四チームずつ四ブロックに分かれて、熱戦を繰り広げました。子ども達は、「あそこの学童は、どこ?」とはじめて他の学童を意識したり、試合前の相手チームの子に「何年生?」と声をかけるなど、交流事業でなければできない光景もたくさんありました。保護者の皆さんからは、熱い声援で大会を盛り上げていただきありがとうございます。「いろいろな学年の子が、同じコートを走り回るのは、学童らしく良かった」「コートが広くて低学年のボールが届かなかった」「応援席が狭かった」「審判長は、判定の苦情を受けるなど苦労が多かった」等、数多くのご意見をいただいています。運営にご協力いただきました実行委員はじめ、応援してくださった保護者の皆様にお礼を申し上げます。

(もう次の大会の練習も始まっている学童もあるとか……)

《大会成績》優勝 — Aブロック・浜田

— Bブロック・松原第二A

— Cブロック・松原第二B

— Dブロック・平田

応援賞 — 泉第二・富士見

コーディネーター賞 — 松原第一・泉第一

(事務局)